3 革新の精神

伝統とアイデアを融合させる

世界農業遺産の登録に欠かせないのが、保全のための具体的な行動計画。今後、地域で持つ話し合いの中で特に注意してほしい点を専門家から聞いた。

世界遺産「平泉」との関わり

舞川地区は世界遺産「平泉」と古くから関わっている。1189年に滅んだ奥州藤原氏から、平泉黄金文化を引き継いだとされる葛西氏（千葉家）。豊臣秀吉の時代に小田原征伐に参陣しなかった事をとがめられて1597年に滅ぶも、その残党は舞川に逃げ延びたという説もある。舞川地区に千葉の名字が多いのは、その影響だともいわれている。

「舞川には、解明されていない多くの歴史的財産が眠っている」

そう話すのは平泉文化遺産センターの千葉信胤（のぶたね）館長。

世界農業遺産登録に向けた話し合いの中で、語り継がれてきた伝統や歴史が世代を超えて共有されることを期待している。

中山間地農業の課題

世界農業遺産にふさわしい要素を兼ね備える舞川地域だが、地域の人たちからは不安の声が上がっている。

機械化が進み、大規模化する平地農業に対し、中山間地農業は過疎化、高齢化や担い手不足といった問題を抱えている。中山間地農業と平地農業の組み合わせが継続できないのでは、というのだ。

問題解決に向けて可能性を探るのが、舞川地域の20～40代約10人で組織される「舞川イノベーション会議」だ。

同会議では舞川地区の子供たちと一緒に、地域の農業を応援する取り組みを計画している。

会員の小野寺信介さんは「地域の農業の実態を知り、『自分たちで舞川を守ろう』という波紋が広がれば」と前向きだ。

定例の打ち合わせ。人とのつながりを軸に新たなムーブメントを起こしたいと話す会員たち

何を活性化するのか

県内で地域づくりを応援する県南広域振興局の下平暢樹（のぶき）さんは、話し合いのポイントとして『地域の活性化』という言葉に振り回されないで」と強調する。

「活性化という言葉は非常に多くの意味を持つ。ある人にとっては経済の好転、ある人にとっては人口減少への回答、ある人にとっては単ににぎやかさを指す。目指す未来に差異があると、途中でリタイアする人が増える。話し合いでは、具体的な数値や互いが想像できる喩（たとえ）を多用して、意識を共有してほしい」と力をこめた。

プラス視点で地域の価値を再確認

中山間地域の自給型農業と広大な沖積平野を活用した利潤追求型の農業が融合する珍しいケース。この価値がユニーク（独特）と判断されれば登録の可能性も高まる。

古くから「一里四方（4キロ）で手に入るものを食べていると病気をしない」といわれる。舞川地区は奥州藤原氏のお膝元であり、平泉文化の食と職を支えていたことは確実。

舞川地区には、まだ評価されていない多くの歴史的な財産が眠っているはず。登録に向けた活動の中で、こうした地域の価値を再発見・再評価されることを期待する。舞川地区の農業自体にも、歴史的価値が垣間見えてくるだろう。

農地はわずか数年で荒廃する。建造物などに比べ、維持の難しい遺産だ。話し合いの場を広げ、知恵を出し合うことで解決策が見えてくるだろう。

Chiba Nobutane

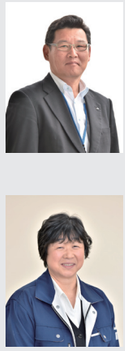
千葉信胤さん

profile ちば・のぶたね
平泉文化遺産センター館長。平泉の世界遺産、文化財だけでなく、東稲山麓周辺の歴史、芸能文化にも詳しい

登録を強力に後押し

関係団体から、登録に向けた活動の方向性を聞いた

県南広域振興局農業振興課
下平暢樹（しもたいのぶき）主査
先進事例を地域に取り込めるようバックアップします。労働力を確保するため、企業とのタイアップも提唱したい。



JAいわて平泉
千葉広（ひろし）営農部部長
一関の「ひとめぼれ」は、特A獲得回数22回。国内で3本指に入る受賞回数。今後も知名度を上げて販売に生かしたい。

照井土地改良区
千葉幸江（さちえ）総務課長
国内2位の面積を持つ一関の遊水地は、最先端農業技術の受け皿として期待されている。伝統とスマート農業の両立を目指したい。

ニューツーリズム協議会（いちのせき）
市嶋豊（ゆたか）事務局長
訪れる人と迎える地域をつなぐ手伝いをしたい。一関には、世界から多くの人が訪れる場所になってほしい。

市役所農政課
伊藤信子（のぶこ）課長補佐
認定に向け、舞川地域の機運が高まるよう応援する。活性化に向けた活動に地域の皆さんと一緒に取り組みたい。

もっと知りたい世界農業遺産

●登録の認定基準

世界農業遺産の登録には、日本農業遺産（＊1）の審査を受け、世界農業遺産国内承認地域・日本農業遺産認定地に選ばれなければならない。審査は現地調査やヒアリングで行われる。5つの認定基準は下記のとおり。

❶食料と生計の保障…農業生産が食料と生計の保障に貢献しているか

❷生物多様性と生態系機能…環境が維持・保全され、生物多様性に富んだ地域か

❸知識システムと適応技術…地域環境の変化に適応した優れた知識やシステムが確立されているか

❹文化、価値観、社会組織（農文化）…農業に関連する特徴的な祭事などの文化が引き継がれているか

❺優れた景観と土地・水資源の管理の特徴…地域の景観が歴史的にも貴重な資源であるとともに、営農を通じた美しい優れた景観であるか

●世界農業遺産Q＆A

Q1…世界農業遺産に認定されるメリットは

A1…地域固有の農業の価値が世界的に認められることで地域に自信と誇りをもたらす。農産物のブランド化や観光客の誘致による活性化が期待できる。認定地域同士の交流や国内外との連携強化も望める。

Q2…世界農業遺産に認定されるとどんな義務があるのか

A2…世界農業遺産の保全のため、具体的な行動計画を定める必要がある。計画に基づき、伝統的な農業・農法や豊かな生物多様性などを次の世代に継承することが求められる。

●認定の主なスケジュール（予定）

年度	内容
2017年	▶申請書類案の作成▶アドバイザーからの意見聴取（10-12月）
2018年	▶世界農業遺産国内承認申請と日本農業遺産認定申請（4-9月）▶日本農業遺産一次審査(10月)▶現地調査・ヒアリング(11月～)▶二次審査(プレゼン、19年2-3月）▶世界農業遺産国内承認と日本農業遺産認定地域決定（3-4月）
2019年	▶世界農業遺産承認申請（5-7月）▶一次評価（9月）▶現地調査（9月～）▶二次審査（10月）▶世界農業遺産国内承認地域決定（12月）▶行動計画に基づく保全活動の継続（20年1月～）

アイデア生かし、最適な解決策を

「舞川イノベーション会議」は、平成27年度に、舞川地域課題対策協議会が中心になってスタートしました。舞川地域づくり計画の策定を進める中で、ワークショップなどに参加したメンバーから「若い住民目線で舞川のことを考えよう」という意見が出され、地域の価値を再発見する活動を行うことになりました。

今年3月に「舞草ツアー」と「相川ツアー」を企画。今まで知らなかった場所や、新たな魅力に出会うことができました。普段見慣れた「あたりまえ」も視点を変えることで資源になるのだと驚いています。

活動を続けることで芽生えた「自分たちで、舞川の宝を守る」という気持ちをメンバーと共有したいです。さまざまな団体と協力しながら、舞川の農業のために貢献したいと思っています。

Onodera Shinsuke

小野寺信介さん

profile おのでら・しんすけ
1981年舞川生まれ。「舞川イノベーション会議」には20～40代の10数人が参加している

（＊1）日本農業遺産…農林水産大臣が認定する農業遺産。特に日本にとって重要なものを認定する